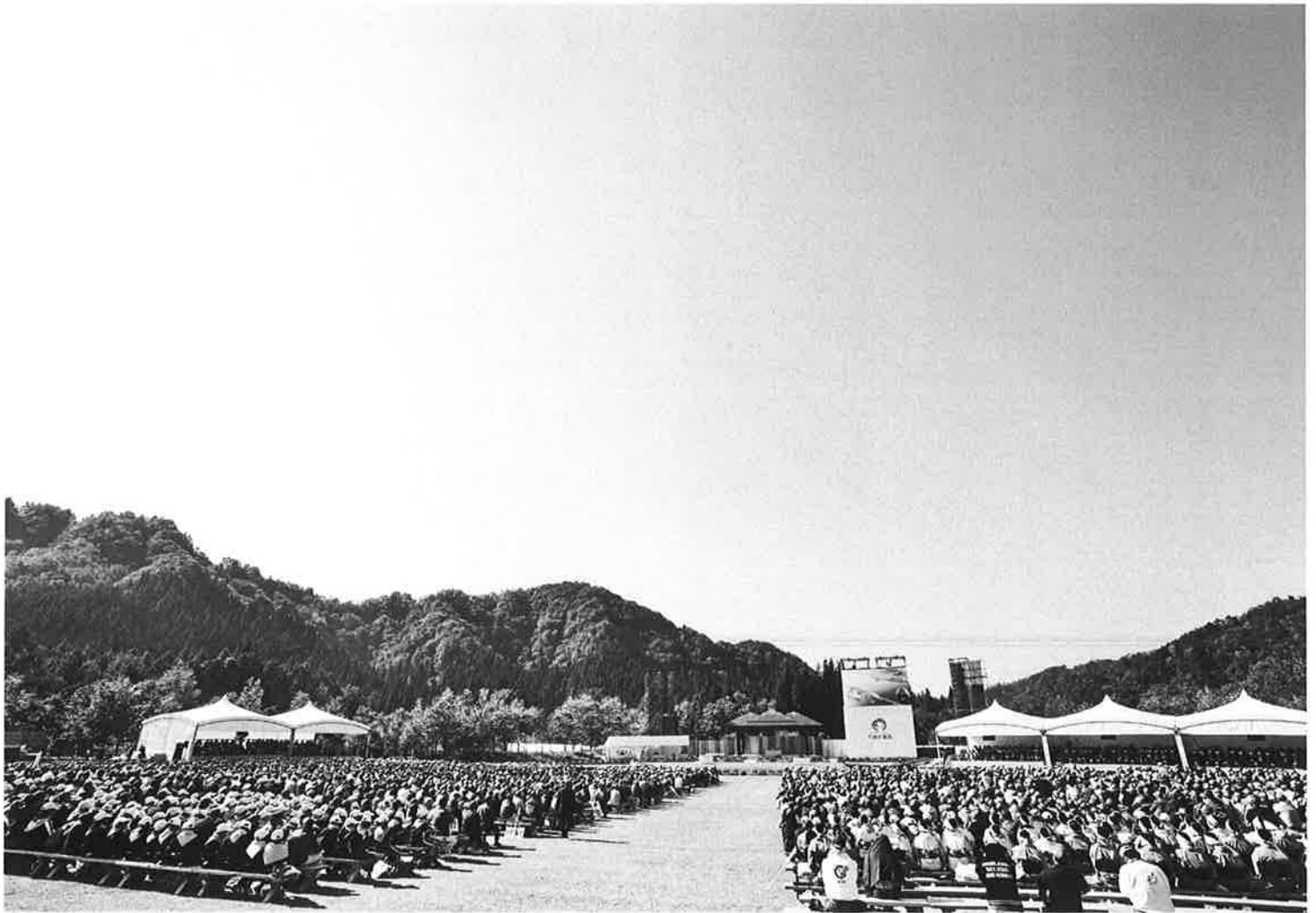


森林やまがた

No.154

2014.11



目次

第38回全国育樹祭を開催しました……………	2	森林共同施業団地における民国連携による 低コスト作業システム研修会の開催について…	11
第24回山形県林業まつり……………	3	普及情報	
やまがた美しい森林づくり推進大会開催……………	4	森林環境学習のための森づくり……………	12
平成26年7月梅雨前線豪雨災の 林道災害査定について……………	5	森の人紹介	
やまがた絆の森プロジェクト リポート4……………	6	渡邊正義さん・五十嵐雅樹さん……………	13
みどりのページ		県立高校初！木質ペレットボイラー導入……………	14
手作りの「葉っぱのしおり」でおもてなし/ 平成26年度緑化功労者の表彰について……………	8	もがみ薪ステーションの取組みについて……………	15
高校生による緑の募金活動……………	9	育林交流集会併催行事……………	16
労働安全衛生規則の改正に伴う 規制強化について……………	10	山形県の古木・名木、公共木造施設……………	17
		丸太価格・製材品価格の推移……………	18

第三十八回全国育樹祭を開催しました

第三十八回全国育樹祭は、心配された台風の影響もなく、晴れ渡る秋空の下、皇太子殿下の御臨席を仰ぎ開催することができました。大会の開催に向けて御尽力いただいた関係者の皆様、御協力いただいた多くの皆様に深く感謝申し上げます。

会場で、あるいはテレビ放映でご覧いただいた方も多かったかと思いますが、今号ではその様子を御報告いたします。

◆プロローグ

地元金山町の稲沢番楽で厳かに始まったプロローグは、映像プログラムを挟み、華やかな花笠踊りの群舞で式典の幕を開けました。

◆皇太子殿下御着く皇太子殿下のことば

山形県民歌「最上川」の流れる中、皇太子殿下は吉村知事と緑の少年団の御案内で御着席になられました。

国土緑化推進機構副理事長の開催のことばの後、新庄北高等学校のカラーガード隊の先導で三旗が入場し、続いて団旗を先頭に県内と県外の総勢約五百名の緑の少年団が会場中央を進行しました。

国歌斉唱の後、大会会長と県知事の主催者あいさつ、県議会議長の歓迎のことばと続き、皇太子殿下からは、林業関係者のほかボランティアや企業などによる森林整備活動の輪が広がりを見せ、県民全体で支える森づくり運動が展開されていることについて、大変うれしく思うとのことばを頂戴しました。

◆緑化功労者の表彰くみどりの贈呈

本県からは「みどりの奨励賞」に明安小学校みどりの少年団、「全国育樹活動コンクール」農林水産大臣賞に橋本健一さん、国土緑化推進機構理事長賞に榎もがみ木質エネルギー、「ふれあいの森林づくり優良市町村」国土緑化推進機構会長賞に飯豊町、「山形県緑化等功労者」に四十七個人、三十七団体が選ばれ、代表して橋本健一さんと、三英クラブ会長長の岸三郎兵衛さんが登壇されました。

みどりの贈呈では、福島県・栃木県・兵庫県・熊本県から参加してくれた少年団の皆さんに、県内の緑の少年団が大切に育てた苗木を贈呈しました。

◆皇太子殿下のお手入れ

村山産業高校の生徒と緑の少年団の子どもたちの介添えで、天皇皇后両陛下のお手植え木に施肥していただきました。その後、介添えの皆さん一人ひとりにお声掛けをされた御様子が印象に残っている方も多いいと思います。

◆緑の少年団活動発表く皇太子殿下御発

明安小学校みどりの少年団（金山町）が、パワーポイントを使いながら、少しだけ緊張した面持ちで（当然ですね）、はっきりとわかりやすく、活動の様子を発表してくれました。

そしてメインテーマアトラクション。出羽三山神社山伏のほら貝の高らかな響きで幕を開け、俳優の佐藤正宏氏演じる松尾芭蕉と、同じく俳優の渡部紘士氏演じる弟子の曾良の掛け合いに、最後はチェリスト増川大輔氏の伴奏による新庄市立沼田小学校合唱部の独唱から「花が咲く」のリレーコーラスへと続き、会場全体が音楽に包まれ感動のうちに終了しました。合間に朗々と響きわたる最上川舟唄や、吉村知事よる青森・岩手・宮城・福島の東日本大震災被災地の緑の少年団への苗木の贈呈を交え、芭蕉と曾良が山形の豊かな自

然と文化に思いを馳せて、豊かな森林を未来へ引き継いでいくことの大切さを表現し、東北の絆や大震災からの復興への思いを印象づけることができたものと思います。

メインテーマアトラクションの後には、林業士の菊地一郎さんと森林ボランティアの横山あずささんによる誓いのことばに続いて大会宣言、第三十九回全国育樹祭を開催する岐阜県知事によるあいさつを経て、金山町長による閉会の言葉で締めくくられました。

そして「ふるさと」の合唱の中で皇太子殿下をお見送りし、渡辺えりさんの語りによる映像プログラムと朝倉さやさんのライブコンサートですべてのプロプログラムが無事終了。高校生三百名から成る式典音楽隊の素晴らしい演奏・合唱が、すべて絶妙なタイミングで式典の所要所を締めてくれました。

◆結びに

第三十八回全国育樹祭は、本当にたくさんの方のお力により成功させることができました。事務局一同、深い感謝の思いでいっぱいです。心からお礼申し上げます。

〔県みどり自然課〕

第24回山形県林業まつり

今年も大盛況でした!



県民の皆様には森林の働きや木材の良さ、森の恵みのすばらしさを実感し、体験していただくため、第二十四回山形県林業まつりが十月二十五・二十六日の二日間、天童市の山形県総合運動公園駐車場内特設会場において開催されました。

また、今年も「第六十四回農林水産祭」として「林業まつり」と「秋の食彩まつり」が同時に開催され、各展示ブースでは県産木製品や県産きのこの展示販売をはじめ大人から子供まで参加できる楽しいイベントが行われ、あちらこちらで長蛇の列ができました。



県産きのこPRコーナー

今年も、十月十二日に第三十八回全国育樹祭が行われたことから、例年よりも遅い開催日となり、天候が心配されましたが、二日間とも秋晴れに恵まれ、来場者数は昨年よりも多い三万五千人となるなど大盛況となりました。

二十五日正午からは、「農林水産祭 合同オープニングセレモニー」として、細谷副知事による開会宣言、主催者による丸太カットが行われ、その後、民俗文化サークルの四方山会による「花笠踊り」が会場を賑わし、盛大に開会しました。

「NPOやまがたの木・住環境共生ネットワーク」による餅まきや恒例の丸太切り競争では、お子さんから大人まで慣れないノコギリと格闘

し、幼児積木競争や青空木工教室でも楽しそうに木に触れ合う光景が見られ、多くの方々にも木の持つ温もりを感じてもらうことができました。

また、今年も、県産木材を使用した迫力の住宅構造躯体が多数展示され、県産木材を見て触れて、木の良さを、より住宅空間をイメージしながら体感していただくことができました。



県産木材の耐火部材展示 (株シェルター)

その他にも、「やまがた森林ノミクス」などのパネル展示や、旬のきのこを材料にしたおいしい山形の食材販売、木の葉や木の実で作る木工クラフトやきのこ植菌体験など、木のすばらしさ、森の恵みを実感していただく、とても良い機会になりました。

さらに、ステージでは、福島県から「辻フラスコール」が駆けつけ、東日本大震災における山形県民の支援への感謝を込めた「フラダンス」が披露され、皆さんに楽しんでいただきました。



木造躯体展示 (株沼澤工務店)

林業まつりは、毎回三万人以上の入場者を数える県内でも有数のイベントであり、毎年楽しみにしている方々がたくさんいます。県民の皆様にとって森林の働きや木材の良さ、森の恵みを改めて見直し、体験することのできるすばらしい機会となるよう、これからも皆さまの御協力をよろしく願います。

〔県林業振興課〕

やまがた美しい森林づくり推進大会開催 (第61回山形県林材業年次大会)



大会の状況

十月二十五日(土)、山形県総合運動公園において「やまがた美しい森林づくり推進大会」(第六十一回山形県林材業年次大会)が、約二五〇名の参加者を得て開催されました。

◆大会

大会は、佐藤大会副会長の開会の言葉で始まり、細野大会会長の主催者挨拶に続き、各林業団体から寄せられた多くの要望・提案事項の主旨説明、大会決議の提案と進められました。

提案事項については、沖田大会副会長からその概要について一括して説明があり、満場一致で原案どおり承認されました。

また、安部大会副会長から大会決議について提案があり、「やまがた森林ノミクス」の推進、多様で健全な森林づくりの推進、東日本大震災の可及的速やかな復旧・復興への取組み、予算確保要請について満場一致で決議されました。

続いて、細野副知事(山形県知事代理)、阿部衆議院議員、岸参議院議員、黒川国有林野部長(林野庁長官代理)、小松農林水産常任委員会委員長(県議会議長代理)から祝辞があり、大会は盛会裏に終了しました。

◆大会スローガン

・「やまがた森林ノミクス」による林業・木材産業の成長産業化と地域の活性化の推進 ・災害に強い多様で健全な森林づくりの推進と東日本大震災の可及的速やかな復旧・復興

◆提案事項

多くの林業団体から提案された森林・林業・木材産業全般に亘る諸課題から、重点課題を取り上げた内容となっており、次のとおりです。

一 「やまがた森林ノミクス」の推進

森林資源を活用する「やまがた森林ノミクス」を推進し、豊かで活力ある地域社会を構築するため、次の提案がありました。

(一)平成二十六年度で終了する「森

林整備加速化・林業再生基金事業」

の延長・拡充 (二)企業の誘致やストックヤードの整備など、品質・性能の確かな県産木材の安定供給体制の整備促進 (三)「公共建築物等における木材の利用促進に関する基本方針」に基づき、国・県・市町村による公共施設等の木造化・木質化の推進 (四)県産木材認証制度を活用した

「総合的な住宅対策」の拡充、並びに木造住宅建設技能者の育成強化 (五)木質バイオマスの利用拡大、及び木質バイオマスエネルギー供給施設等整備への支援の強化 (六)林道・作業道等の路網整備や高性能林業機械の導入など、林業経営基盤の整備に

対する支援の強化 (七)地域林業の担い手である森林組合や林業事業者等の育成強化 (八)フォレストや森林施業プランナー、路網作設オペレーター、フォレストワーカー等森林施業を担う人材の計画的な養成 (九)特用林産物等の生産振興による山村の活性化

二 多様で健全な森林づくりの推進
森林の公益的機能を持続的に発揮させ、地球温暖化の防止と安全で快適な県土づくりを進めるため、次の提案がありました。

(一)地球温暖化対策税の活用など、森林吸収源対策の財源の確保 (二)間

伐など適切な森林整備の推進 (三)低

コストで省力的な造林・育林技術の早期開発、優良苗木の安定供給、補助率の上乗せ等による再造林に係る支援制度の強化 (四)国土強靱化を図る治山事業の計画的・積極的な推進 (五)「やまがた緑環境税」による荒廃

森林整備の促進 (六)ナラ枯れや松くい虫など森林病害虫対策の推進 (七)水源かん養保安林等の計画的な配備など水資源・森林保全対策の強化 (八)都道府県林業公社の円滑な森林整備のための地方財政及び金融措置を含む支援策の強化 (九)企業等の社会貢献活動や県民参加による絆の森づくりの推進

三 東日本大震災の可及的速やかな復旧・復興
東日本大震災による被災地の速やかな復旧・復興はもとより、東北全体の復興を促進するため、次の提案がありました。

(一)被災を受けた森林・林業・木材産業の速やかな復旧・復興 (二)木造復興住宅の建設の促進、及び復興木材の安定供給を図る広域的体制の構築

◆終わりに

本大会で採択された提案事項については、国・県等に提案・要望してまいります。〔山形県森林協会〕

平成二十六年七月梅雨前線豪雨災の

林道災害査定について

◆はじめに

近年、全国で多くの災害が発生しています。平成二十六年も七月の長野・山形、八月の高知・徳島・京都、そして多くの命が失われた八月下旬の広島の大雨、更には御嶽山の噴火と、例年以上に目を覆いたくなるような人的被害を伴う大きな災害が発生しました。

本県においても、大雨による災害が発生しました。その概要は次のとおりです。

◆七月九日からの大雨災害

七月九日から十日にかけて、置賜地方を中心に激しい集中豪雨があり、長井観測所の日雨量は観測史上一位に達するなど、記録的な大雨となりました。

この大雨による農林水産関係の被害額は二十三億円に達し、うち森林関係は、林地崩壊七箇所、林道災害七十一路線百八十五箇所、計約十一億円を超える被害が発生、特に南陽市、白鷹町で被害が甚大となりました。

林道においては二年連続の被災を受けた箇所も多く発生しました。また、三箇所では応急仮工事を行って通行を確保し、置賜東部線においては不通となった県道の迂回路として孤立集落解消に寄与するなど、特徴的な事象が多い状況でした。



応急仮工事(路肩拡幅)状況【置賜東部線】

◆林道災害査定

九月十六日から十九日の四日間にかけて第一次林道災害査定が行われました。昨年と比較すると被災から

査定までの期間を一カ月程度短縮しての早期査定となりました。これは、各申請自治体の皆様の頑張りによるものです。

また、林野庁整備課による事前現地指導もいただいたほか、県でも市町村の災害復旧事務の支援を行い、連携して取り組んだ成果でもあったと思います。

査定結果としては、申請した二十五箇所について全て朱入れをいただき、査定額は約二億で査定率は九十八%となりました。



実地査定状況【白鷹東部線】

◆災害査定雑感

今回の査定に随行して感じたことは、控えめな申請でもいけないとい

うことです。カットを恐れず、被災原因の除去も検討し、最大限適正な申請を目指したいものです。今回は、査定官がより適正な復旧となるよう配慮頂きましたが、申請主義なので限界があります。

また、今後の参考に査定時に多くの問答になった事項を記します。

- ・ 構造物の根入れは適正か
- ・ 構造物の法勾配は適正か
- ・ 法面保護工の選定は適正か
- ・ 産廃処理施設の選定は経済的か
- ・ 施工機械の規格は適正か
- ・ 林道敷はどこまでか

どれも決して難しいことではありません。現場の状況を理解し自分のものとして、明確に答えられる準備が必要です。

また、査定で終わりではなく、残事業調査、会計検査と審査は続きます。

◆おわりに

林地被害は、今後の降雨等により崩壊の拡大の恐れがあるほか、林道施設被害による通行止めは森林施業や生活に支障を及ぼすことなどから、関係市町村や地元住民の方々と力を合わせ、早期復旧を目指し取り組んでまいります。〔県林業振興課〕

「やまがた絆の森プロジェクト」

レポート4

◆はじめに

県では、県民や企業の皆様に森づくりや自然環境の保全活動に取り組んでいただくため、やまがた緑環境税を活用し「やまがた絆の森プロジェクト」を推進しており、現在、県内二十五箇所での絆の森協定に基づく企業による森づくり活動が行われています。

今回は、「おーばん琴の森」の現地活動レポートと新たな協定の締結についてご紹介します。

現地活動レポート 「おーばん」おーばん琴の森

◆おーばん琴の森

（株）おーばんでは、佐渡ヶ嶽部屋力士のしこ名に付いている「琴」の名を付けた「おーばん琴の森」として、平成二十三年度から尾花沢市内で森づくり活動を始めました。この活動では、従業員が行う下刈り作業のほか、おーばんの店舗で募集し親子で参加する森林環境学習「元気森もりこども塾」を開催してきました。

今回は「元気森もりこども塾」の

活動を紹介します。今年の第一

一回目は、五月十七日に開催され、親子十五組約六十名の参加者が地図を見ながらの森林散策を行いました。



参加者全員で記念撮影

参加者は、ルートの途中にある琴の森に関する問題を解いたり、大きな木の幹周りを自分の体を使って調べたり、木立ちを利用した綱渡りを行うなど、「おーばん琴の森」を存分

に楽しみました。特に、綱渡りは子供たちに大人気で、綱から地面に落ちないように注意深く渡り、渡り終えるとすぐに何度も挑戦していました。



木立を利用した綱渡り

七月に予定していた二回目は、周辺にクマが出没したため残念ながら



オオヤマザクラの記念

中止になりましたが、九月十七日には親子十五組約五十名が参加して行われました。

当日は、オオヤマザクラの記念植樹のあと、山形県キャンプ協会の石井、齋藤両先生から木や花の名前を教えてもらいながら森を散策し、ドングリやクリの実、枝などを集めました。



散策しながら木の実拾い

その後、カセットコンロと缶を組み合わせた「簡易炭がま」を使い、持ち寄った材料で花炭を作りました。木の実などが花炭になると子供たちの歓声が上がりました。

活動後は、おーばん農園で育てた里芋を使い、醤油味の芋煮と佐渡ヶ嶽部屋特製の味噌ちゃんこ芋煮が振る舞われ、参加者は秋の味覚を楽しんでいました。



出来上がった花炭

おーばんでは、今後も親子で森と親しめるフィールドとして琴の森を整備していく予定です。

**協定締結リポート
新たに二地区の協定を締結**

県では、新たに二件の絆の森協定を締結しましたので紹介します

◆JA山形市「のんきな殿さま」絆の森

八月二十二日、山形市農業協同組合と山形市小白川財産区、小白川山林組合、県の四者による絆の森協定を締結しました。

山形市農業協同組合では、森づく

り活動を通して地域の森林や動物などの自然生態系の保全に取り組むこととしており、山形市の盃山東側の森林十五ヘクタールを対象に地域の方々と、環境学習やボランティア活動を計画しています。

「のんきな殿さま」とは、稲作の土作りを奨励した殿様の言い伝えを基にした山形市農業協同組合のオリジナルキャラクターで、絆の森でも健全な森づくりを通して地域の発展に貢献したいとの思いから名付けたものです。



協定書に署名する吉村知事

今年の活動は、小白川山林組合と共同で十一月に下刈や管理用の遊歩道の整備を行います。また、きのこの植菌体験も予定しています。

**やまがた絆の森協定締結式
JA山形市「のんきな殿さま」絆の森**



記念撮影

(左から市川市長、田村組合長、吉村知事、高嶋山林組合長)

農業団体としての参加は、このたびの協定が初めてとなりますが今後、農業関係者との連携をさらに進め、豊かな水を生み出す森林を守り、育てる絆の森をさらに広げてきたいと思えます。

◆企業局絆の森月山仁田山

九月三十日、西川町の月山湖南側の森林約七ヘクタールを対象に山形県企業局と西川町、本道寺地区会、県の四者による協定を締結しました。

県企業局の取り組みは、村山広域水道の水源に位置する森林の公益的機能の維持・向上を図り、水環境を保全する活動の重要性を普及するこ

とを目的として、職員自ら森づくり活動を行うもので、十月二十一日にブナの植栽を行いました。来年度からは、委託事業によるスギの間伐も計画しており、水源林の整備を進めていく予定です。



記念撮影

(左から小川町長、廣瀬県企業管理者)

◆おわりに

今回の協定締結により「やまがた絆の森」は、三十企業・団体、二十五箇所となりました。

県では、今後とも、森づくり活動を通して企業と地域の方々との交流が深まり、地域の活性化に繋がるよう「やまがた絆の森」を推進してまいります。

〔県みどり自然課〕



みどりのページ

手作りの「葉っぱのしおり」づくり

◆期 日

平成二十六年九月十八日（木）

◆場 所

鮭川村立鮭川小学校

◆参加者

鮭川村みどりの少年団員三十八名

◆概 要

第三十八回全国育樹祭の併催行事として、全国緑の少年団活動発表大会が鮭川村農村交流センターで開催されました。この全国緑の少年団活動発表大会の参加者をもてなしの心で迎え入れようと、開催地である鮭川村みどりの少年団の六年生団員が、



「どの葉っぱを使おうかな〜」

緑の少年団の出前教室を活用して「葉っぱのしおり」作りを行いました。

しおり作りは、まず、モミジの葉っぱを事前に採取して押し葉にしました。モミジを選んだ理由は、鮭川村の木がモミジであること、そして同校の校庭にはとつても綺麗な葉っぱを付けたモミジの木が立派に生育していることからです。



台紙と葉っぱをフィルムに挟んでいきます

次に、全国育樹祭のシンボルマークやトトロの木の愛称で親しまれている小杉の大杉などのスタンプを押した台紙に、団員ひとりひとりが「ようこそ鮭川村へ」「さけがわのキノコはおいしいよ」など心のこもったメッセージを書き入れました。

最後に、メッセージ入りの台紙と押し葉にしておいたモミジの葉っぱを一緒にラミネートし、約三百枚のしおりを完成させることができました。そしてこの「葉っぱのしおり」は、全国緑の少年団活動発表大会の参加者全員に配布されました。



完成した「葉っぱのしおり」

この活動を通して、全国から集まった緑の少年団員に鮭川村の魅力や地元の少年団活動の成果を伝えることができました。また、鮭川村みどりの少年団員にとつても地元で開催された全国の発表大会に係ることができ、いい記念になったことと思います。最後になりましたが、ご協力をいただいた関係者の皆様に感謝を申し上げます。

平成二十六年度 緑化功労者の表彰について

◆期 日

平成二十六年十月一日（水）

◆場 所

札幌市 KKRホテル札幌

平成二十六年度東北・北海道地区緑化推進協議会において緑化功労者の表彰式が行われ、山形県からは、「山形県緑を育てる女性の会」が表彰されました。

当会は、源流の森内に「女性の会絆の森」を造成し、植栽や下刈り等の保育活動を毎年実施しています。

また、研修会や交流会を通じて会員の研鑽に努めるとともに、県や林



最後にみんなで記念撮影